

# 流木を活用したインテリアの研究

1934002 五十嵐 美帆 1934008 岩田 留奈

## 背景と目的

日本が抱える環境問題の1つに「流木の処理」がある。近年の台風、大雨、土砂災害などの増加により、森林の樹木が倒れたことで河川から海岸に漂着した大量の流木の処理が追いつかず、ウミガメの産卵、漁業、景観悪化などへの被害をもたらしている。また、海岸に漂着した流木は再び海に流出し、漁船に衝突すれば損傷する、漁船のエンジンに破片が詰まった場合にはオーバーヒートして航行不能になる可能性があり漁業にも悪影響を与えている。流れついた流木の多くは廃棄物として処分されており、処理施設までの輸送費用や処理工程の費用など多くの労力がかかるという問題から海岸に放置されることが多くなっている。

そのような中、海岸に放置されている流木はアップサイクルされ、インテリアやアートとして利用し、販売もされている。流木はひとつひとつが個性的であり、太さや長さ、曲がり具合、色など同じものはない。また、長い歳月をかけて作り出された美しい造形美や温かみのある手触りは自然を感じる空間を作り出すことができるなどの理由から流木をインテリアのアクセントとして利用されることが増えてきた。

本研究では、流木をインテリアとして利用することでどのような空間を作り出すことができるのかを明らかにすると共に、実際に海岸で収集した流木を用いてインテリアグッズを制作することで環境問題解決に向けた新しい価値の創造を目的とする。

## 流木のデザイン要素と効果

### 触覚的效果

木材への接触による生理的リラックス効果  
オイル塗装やウレタン塗装よりも、  
無塗装の材の方が高いリラックス効果を与える

### 視覚的效果

眼に有害といわれる紫外域の光の反射小さく、  
眼に優しい材料  
形や色が特徴的で、デザイン要素と共に、  
人の視線を集める効果がある

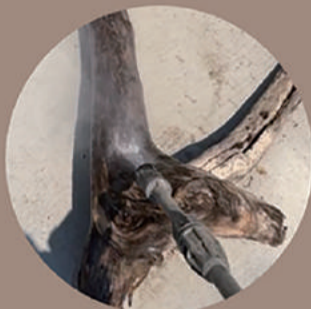
## コンセプト

広大な海を漂ってきた流木は、どれ1つとして同じものはない。そんな流木の個性を活かすインテリアを目指す。  
流木はそれぞれ、力強い荒々しさのあるものや、重厚感のあるもの、自然の力を感じる独創的なものなど、いくつかの種類に分けられる。今回はその中でも曲線が特徴的な流木をモチーフに制作する。

流木を活かしたシャビーシック調のインテリアグッズを制作する。シャビーシックとは、「みずぼらしい」を意味する“shabby”と、「上品な、粋な」を意味する“chic”という反対の意味を合わせもつ。流木は漂流する中で蓄積された、歳月やダメージが必然的にアンティーク感を放つ。そんな流木を、インテリアグッズとして上品に、粋にアップサイクルすることで新たな活用方法のひとつとして模索する。

## 下処理

1. 流木を水洗浄し、砂などの汚れを大まかに取り除く。
2. 約70度の湯を溜め、熱湯消毒を行う。入りきらない場合は、2回に分ける。
3. 水に汚れが浮かばなくなるまで熱湯消毒を何度か繰り返す。
4. 虫や汚れが着かないよう、室内で完全乾燥させる。
5. ささくれ部分や毛羽だった部分にやすりをかけ、滑らかにする。



## Candle holder

キャンドルホルダー



中央の小さな突起を活かし、反りが目立つ角度を工夫した。  
キャンドルスタンドは、形を邪魔しないシンプルでデザイン的なものを制作した。

## 製作工程

1. 木の配置を決める。
2. キャンドルの型枠を外し、ドライバーで中心に穴を空ける。
3. 軸を通し、キャンドルスタンドを作成する。
4. スタンドの間隔や個数を調整し、配置を決定する。
5. ドライバーで流木に穴を空け、型枠をトンカチで固定する。
6. キャンドルをスタンドに戻して完成。





# Table lamp

テーブルランプ

重量感がある個性的な形の流木の良さを活かした作品。荷重に耐えられる重さがあり、ランプを吊り下げることですりハウスのような遊び心あるデザインとする。

## 製作工程

1. 木の配置、正面を決める。
2. 写真右の配置に決定し、左にある大きな空間を活かしたナチュラルなアイアンウッド系のランプを製作する。
3. 黒いアイアンでは金具が目立ってしまったため、流木目立つようシルバーに塗装した。
4. 上部に電動ドライバーで穴を空け、ヒートンを取り付ける。
5. ランプ台の木も白色系に変え、流木と統一感を持たせる。
6. ランプを置き完成。



# Jewelry stand

ジュエリースタンド

イヤリングやピアスを掛けることのできる卓上ジュエリースタンド。二つの個性的な形状の流木をアルミ丸棒でつなぎ、流木の突起を活かす作品にする。

## 製作工程

1. 2本の流木の配置、角度を決める。
2. 電動糸のこぎりで長さや角度を調整する。
3. 土台と、アルミ棒を長さに合わせて切る。4. 水平に注意しながら、流木にドライバーで穴を空け、アルミ棒を固定する。
5. 土台と流木にドライバーで穴を空け、ネジで固定する。



# Mirror stand

ミラースタンド

樹皮と内部のコントラストが強く、複雑な形を活かした印象的な流木を用いる。鏡を置くことで、アクセントとして、またいっそう複雑に角度によって流木自体の形を魅せる作品となった。

## 製作工程

1. 木の配置を決める。
2. 右の配置に決定し、独特な形を活かしたミラースタンドを制作する。
3. 流木の凹凸に合わせて変形ミラーをレジンで接着させる。ブラックとベージュ系の色を持つ流木も形も変えず利用することで古くもありながらシックな雰囲気表現した。



# Jewelry hanger

ジュエリーハンガー

作品の中でも1番実用的なデザイン。アクセサリーだけでなく、鍵やタオルなど様々な用途に使うことが出来る。真っ直ぐではない、歪んだ流木だからこそ、シンプルでありながらも個性を表せる作品。

## 製作工程

1. 流木の長さを決め、電動糸のこぎりでカットする。
  2. ヒートンの間隔、個数を調整し、ドライバーで穴を空け固定する。
  3. 紙紐を取り付けて完成。
- シンプルな作品だが、結び目をこだわることでアクセントを与えた。

# Photo stand

フォトスタンド

流木本来の亀裂や穴を利用したフォトスタンド。写真を飾った時のバランスを見ながら形を変えないように微調整した。

## 製作工程

1. 流木に元々ある裂け目を活かし、フォトカードを挿す。
2. マルチインパクトドライバーを用いて流木に元々ある穴を広くする。
3. その穴にドライフラワーを挿す。時の流れを感じる流木にドライフラワーを挿すことでアンティーク感を表現した。







## Mini table

ミニテーブル

形がバラバラな6本の流木を交わらせて接着してテーブルの脚を制作する。その上にガラスアクリルの天板を置くことで流木の曲線美を強調させる。

### 製作工程

1. 6本の流木の足先を丸く削る。
2. エポキシ樹脂で6本の根元を接着して紙紐で固定し乾燥させる。
3. 完全に乾燥したら、レーザーレベルで水平を取り、線を引く。
4. 線を引いた部分をノコギリで切断する。
5. ガラスアクリル板をレーザーカッターで丸く切り抜く。
6. 流木の断面上にガラスアクリル板を置く。



## Accessory stand

アクセサリースタンド

流木を一本の木に見立て、ネックレスやブレスレットを掛けることのできる卓上ジュエリースタンド。シンプルでありながらも存在感を放つ作品にする。土台にカラーサンドを接着することで華やかになり、流木の色にとマッチしアンティーク感を表現した。

### 製作工程

1. 木板を円形に切断し、土台を作る。
2. 土台と流木をビスとドライバーを用いて接着する。
3. 土台にホワイトのカラーサンドを広げて接着する。



## Flower mobile

フラワーモビール

流木にドライフラワーの花束を掛けたアンティーク調のモビール。風が吹くたびにゆらゆらと揺らめき、自然のやさしさを感じる作品にする。ドライフラワーを3束ぶら下げることで華やかなアンティーク感を表現した。

### 製作工程

1. 流木の両端の突起を切断する。
2. 紙紐を用いて流木から3つのドライフラワーの束をぶら下げる。
3. より華やかさを演出するためにドライフラワーの束にリボンをつける。
4. 流木を壁などに掛けることができるように紙紐で両端を結ぶ。

## Flower object

フラワーオブジェ

流れを感じる形をしていたため、流木らしさを感じる端部を残しつつ、花と合わせて華やかなオブジェを制作した。古いイメージの流木に華やかな色のドライフラワーを挿すことで、シャビッシュの上品さを表現した。

### 製作工程

1. 流木の配置を決める。
2. 流木の中心にマルチンバクトドライバーで穴をあける。
3. その穴を生け花スポンジで埋める。
4. ドライフラワーを生け花スポンジに挿す。



## Rack

ラック

形が特徴的な大きい流木を三等分に切断し、ガラスアクリルを挟んだラック。ガラスアクリルの板を使用することで、力強く美しい流木の良さを消さず存在感のある作品にする。

### 製作工程

1. どの位置にアクリル板を差し込むか決める。
2. レーザーレベルで水平を取り、線を引く。
3. ノコギリを使用して線を引いた箇所を切断する。
4. レーザーカッターでガラスアクリル板をカットする。
5. 切断した流木の断面にドライバーで穴を開け、ダボを刺す。
6. アクリル板もドライバーで穴を開け、流木のダボと合わせてエポキシ樹脂で接着する。
7. 同様に二段目も制作する。

